

平成23年度 伊万里市立青嶺中学校 学校評価計画

1 学校教育目標				
望ましい人間関係を育み、自ら考え行動する生徒の育成を図る。				
2 学校経営ビジョン				
① 生徒と教職員間の信頼関係を基盤として、共に向上していく学校づくりを目指す。 ② 教職員間の信頼関係を基盤として、組織として動く学校づくりを目指す。 ③ 保護者や地域に信頼され、愛される学校づくりを目指す。				
3 本年度の重点目標		4 前年度の成果と課題		
① 基礎的・基本的な学力の定着を確実に行うとともに、表現力の育成を目指す。 ② 個々の生徒への支援や助言を適切に行い、不登校生徒の解消を目指すとともに、新たな不登校生徒を出さない。 ③ 「さわやか せい・れい」のスローガンの推進・深化を図り、学校行事等を通して本校生徒の良さを保護者や地域にアピールする。		・学力向上への取組はよくできており、全国学習状況調査や市内共通テスト等で好成績を収め、卒業した生徒も95%以上が自分の希望する高校へ進学した。ただ、学んだことをもとに自分の考えをきちんと人に伝えたり、表現豊かに発表する力は十分でなく、引き続き取り組んでいく必要がある。 ・心の教育の面では、大きな問題行動やいじめ等の発生もなく、健やかな成長が見られる。また、不登校生徒の全面解消はできなかったものの新たな不登校生徒が出なかったのは大きな成果であった。これからも引き続き取り組んでいくことが重要であると考え。 ・「さわやか せい・れい」や地域行事のクロス・カンントリー大会への取組により、少しずつではあるが、自分に自信を持ち積極的に行動できる生徒も増えている。今後も引き続き取り組んでいきたい。		
5 総括表				
① 基礎的・基本的な学力の定着を確実に行うとともに、表現力の育成を目指す。				
	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	◎教職員の資質向上	授業研究の推進	・各教師が、「言語活動の工夫を取り入れた授業」について研究し、全職員が研究授業を1回以上実施する。	・各教師が学習指導要領の解説書などで研究を行い、「言語活動」の内容や意義について理解を深める。 ・各教師が教材研究を通じて、研究授業の時期等を決め、校内研で調整・決定を行う。 ・「教科の垣根」を取り除くために、研究授業の視点や各教科共通の指導案づくりを工夫する。 ・授業研究会の持ち方を工夫・改善する。
教育活動	●学力の向上	指導方法の工夫・改善	・各教師が、生徒の学習意欲を向上させるため指導法の工夫・改善に取り組み、2学期末のアンケートで「授業は分かりやすかった」「授業はためになった」と答える生徒が80%以上(前年度77%)になるようにする。	・各教師が指導法の工夫・改善について「評価育成システム自己目標申告書」の中に明記する。 ・日々実践を行い、毎学期ごとに自己チェックを行う。 ・2学期末に全生徒・保護者対象にアンケートを実施し、評価を行う。結果については一部を学校便りで公開する。
教育活動	○表現力の向上	スピーチ活動の充実	・全校集会や生徒集会等の中で設定されたスピーチの場面で、当該生徒が大きな声で元気よく、自分の意見や感想などを1分以上話せるようにする。	・スピーチの仕方についての講話を行う。 ・各学級で朝の会や帰りの会の時間にスピーチ活動に取り組む。 ・学年集会等で自由に意見や思いを言える活動を設定し、自由に発表できる雰囲気づくりを行う。 ・全校集会や生徒集会等で表彰を受けた時の感想スピーチや意見発表の機会をできるだけ多く設定していく。
特定課題	○読書活動の充実	親子ふれあい読書の推進	・夏季休業中と冬季休業中に実施している「親子ふれあい読書」に、生徒の家庭の100%が取り組むようにする。	・事前の広報・啓発活動をしっかり行う。(学校便り、図書館便り、学級便りのそれぞれで知らせる。) ・取り組みやすいように本の紹介をしたり、カードの記入の仕方などを工夫したりする。 ・取組後カードを掲示したり、学校便り等で知らせたりして意識を高める。 ・よく頑張った親子を表彰する。
② 個々の生徒への支援や助言を適切に行い、不登校生徒の解消を目指すとともに、新たな不登校生徒を出さない。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	認め合い、支え合い、感謝する心の育成	・2学期末のアンケートで「青嶺中学校の生徒(職員)でよかった」と答える生徒(職員)が100%(前年度98%)になるようにする。	・「声かけ」「あいさつ」「ほんわか言葉」を推進・奨励する。 ・「いいところ探し」を推進・奨励する。 ・「さわやか せい・れい」への取組と連携させる。 ・学校行事への取組と連携させる。 ・道徳の授業の充実を図る。
教育活動	○人権・同和教育の充実	自己肯定感の育成といじめの防止	・自分に自信を持たせることで他人への攻撃的な言動を抑制し、いじめをする生徒の発生を防止する。	・「いいところ探し」を推進・奨励する。 ・エンカウンター的手法を用いた学級経営を行う。 ・青嶺中「いじめ追放宣言」を意識させ、実践させる。 ・人権標語や人権作文へ積極的に取り組ませる。 ・人権学習や人権集会の充実を図る。

教育活動	◎教育相談の充実	不登校の解消と防止	・現在いる1名の不登校生徒の状況を改善するとともに、新たな不登校(傾向)生徒の発生を防止する。	・不登校生徒については、定期的に家庭訪問を行い、本人や家庭と学校との関係を切らないようにする。 ・教師と生徒間の信頼関係づくりを継続して行い、いつでも相談しやすい環境作りを行う。 ・QU検査等の結果を活用し、必要に応じて相談・援助を行う。 ・スクールカウンセラー等を活用し、心の動きやストレスなどについての授業を行う。
教育活動	◎特別支援教育の推進	発達障害のある生徒への支援の充実	・発達障害を持つ生徒や疑いのある生徒への支援・援助を適切に行い、学校生活上支障が出るような大きなトラブルの発生を防止する。	・個々の生徒の実態や様子をしっかりと把握する。 ・定期的に支援会議を開き、職員間の共通理解と支援の内容・方法等についての確認を行う。 ・個別の支援計画を作成し、具体的な支援を行うとともに、適宜必要に応じて検討・対応を継続する。 ・家庭との連絡・相談を密に行い、必要に応じてケース会議を開いたり、伊万里特別支援学校や関係機関との連携を行う。

③ 「さわやか せい・れい」のスローガンの推進・深化を図り、学校行事等を通して本校生徒の良さを保護者や地域にアピールする。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	◎生徒指導の充実	「さわやか せい・れい」の推進・深化	・「さわやか せい・れい」の30項目の内容を意識した行動実践を奨励し、全体として落ち着いたある学校生活を維持する。	・年度当初に全生徒・職員で「さわやか せい・れい」の内容と取組の意義について確認する。 ・日々実践を行い、毎学期末ごとに自己チェックを行う。集計結果については、学校便りで保護者にも知らせる。 ・頑張った生徒は学級からの推薦によって校長が表彰する。自己肯定感を育む一助とする。
教育活動	◎学校行事の充実	生徒の自主性・主体性の育成	・「さわやか せい・れい」の日々の実践の集大成としての学校行事(体育大会や文化発表会など)への取組を通して、保護者や地域の人々に本校生徒の良さをアピールする。	・テーマ設定から企画・運営まで、できるだけ生徒会本部や各部委員会を中心として、生徒自身に行わせ、必要に応じて指導・支援を行う。 ・日々の「さわやか せい・れい」への取組が生かされ、実を結ぶ活動になることを意識させる。 ・いろいろな発表・演技をアピールするためには、目に見える動きや元気のよさが大切であることを意識させる。
教育活動	●健康・体づくり	基礎体力の育成・充実	・地域行事である「夢みさきクロス・カントリー大会」に全生徒・職員で参加し、元気で逞しく走る姿を見せることで保護者や地域住民にアピールする。	・長期休業中の部活動では、全ての部が合同一斉ランニングから練習を始め、基礎体力を身に付けさせる。 ・クロス・カントリー大会の2週間前から、全校生徒・職員が放課後一斉ランニングに取り組み、体力向上を図る。 ・大会当日では、どんなに遅くとも最後まで走り抜き、頑張りアピールする。
教育活動	◎郷土理解と誇りの涵養	郷土(郷土の人々)を誇りに思う心の育成	・郷土出身で活躍している人々の話を聴き、その生き様を知ることで、郷土や郷土の人々を理解し、誇りに思う心を育てる。	・郷土出身で活躍している人から講師選定を行う。(今年度は波多津町出身者の予定) ・講演会当日の運営は、お礼の言葉を含め、生徒会本部を中心に生徒自身に行わせる。 ・全校生徒に感想を書かせ、お礼の手紙と一緒に講師に送る。